

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スベキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル

監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人二十歳ニ達シタル後ト雖モ二十五歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ

刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同ジ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留置ノ言渡ヲ爲サズ

第四章 少年審判所ノ手續

第十四條 高等法院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セズ

第十五條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セズ

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルベキ罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第十六條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セズ

十四歳ニ滿タザル者ハ道知事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少

年審判所ノ審判ニ付セズ

第十七條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スベキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スベシ

第十八條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルベク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルベキ資料ヲ差出スベシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ録取スベシ

第十九條 少年審判所審判ニ付スベキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ

調査スベシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルベク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムベシ

第二十條 少年審判所ハ少年保護司ニ命ジテ必要ナル調査ヲ爲サシム

ベシ

第二十一條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命ジ又ハ之ヲ保護團

體ニ委囑スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルベキ資料ヲ差出スコトヲ得

第二十二條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命ジ調査ノ爲必要ナル事實

ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ録取ス

ベシ

第二十三條 参考人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコト

ヲ得

第二十四條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本

人ヲ同行セシムルコトヲ得

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又

ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲ス

コトヲ得

一 保護者ニ預クルコト

(谷岡純)

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

四 感化院ニ委託スルコト

五 矯正院ニ委託スルコト

六 病院ニ委託スルコト

前項第一號、第二號及第六號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第二十七條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十八條 第二十四條、第二十六條又ハ前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲

シタル場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スベシ

第二十九條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スベキモノト思

料シタルトキハ審判期日ヲ定ムベシ

第三十條 審判ヲ開始セザル場合ニ於テハ第二十六條ノ處分ハ之ヲ取

消スベシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本

人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任

スルコトヲ得

(谷岡納)

附添人ハ保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者
ヲ以テ之ニ充ツベシ

第三十二條 審判期日ニハ朝鮮總督府少年審判官及朝鮮總督府少年審
判所書記出席スベシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スベシ但シ實益ナシト認
ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出サザルコトヲ得

第三十三條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳
述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムベシ但シ相當ノ事由アルトキ

ハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第三十四條 審判ハ之ヲ公行セズ但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第三十五條 少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第三十六條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スベシ

第三十六條 刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スベシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スベシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スベシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スベシ

第三十七條 保護者ニ引渡スベキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スベシ

第三十八條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スベキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クベキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スベシ

第三十九條 少年保護司ノ觀察ニ付スベキモノト認メタルトキハ少年

保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スベシ

第四十條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スベキモノト認メ

タルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルベキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スベシ

第四十一條 第三十六條ノ場合ヲ除クノ外保護處分ヲ爲スベキモノニ

非ズト認メタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スベシ

第四十二條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事

件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スベシ

第四十三條 少年審判所第三十七條、第三十八條及第四十條ノ規定ニ

依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ

病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第四十四條 少年審判所第三十七條及第三十八條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ視察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十五條 少年審判所第三十七條乃至第四十條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第十四條又ハ第十五條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖モ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スベシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第四號又ハ第五

號ノ處分ヲ繼續スルニ適セザル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十六條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者

ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケ

タル者ニ對シ之ニ因リ生ジタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコト

ヲ得

第四十七條 第二十三條及前條ノ費用竝ニ矯正院ニ於テ生ジタル費用

ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ

全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟

事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五章 刑事手續

第四十八條 檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スベシ

第四十九條 第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルベキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴追ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第四十五條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第十九條ノ調査ヲ爲スベシ少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十一條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十二條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムベシ

第五十三條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖モ審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スベシ

第五十四條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第五十五條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致

スル旨ノ決定ヲ爲スベシ

検事ハ前項ノ決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 第三十一條、第三十二條第二項第三項及第三十三條ノ規定ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第六章 罰則

第五十七條 少年審判所ニ於テ調査セラレ若ハ其ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付捜査セラレ、豫審ニ付セラレ若ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、

其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(谷岡納)

理由

近時罪ヲ犯シ又ハ罪ヲ犯ス虞アル少年ノ數逐年増加ノ傾向ニ在リ殊ニ朝鮮ノ現情ニ鑑ミ此等犯罪少年及虞犯少年ヲ保護、矯正、善導シテ健全有爲ノ國民ト爲スハ人的資源ノ增強確保上又社會防衛上緊要ナルヲ以テ此等少年ニ對スル刑事手續及刑事處分ニ關スル特別竝ニ保護處分ノ制度ヲ設クルノ必要アルニ依ル

濟



朝鮮感化令中改正制令案

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年三月十七日

内閣總理大臣東條英機



四

月

日

拓甲八四

昭和十七年三月十六日

内閣書記官長

五

内閣書記官

三月十八日裁可

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

春

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

德

内務大臣

陽

司法大臣

五

逓信大臣

五

鈴大國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙朝鮮總督上奏

朝鮮

感化

令中

改

去

司

司

正制令案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案
ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮感化令中改正ノ件
上奏ノ通裁可ヲ經タリ

昭和拾七年參月拾八日指令

法制局 第七八號

昭和十七年三月十二日



3

主任 管理局栢原書記官

管行第二三七號

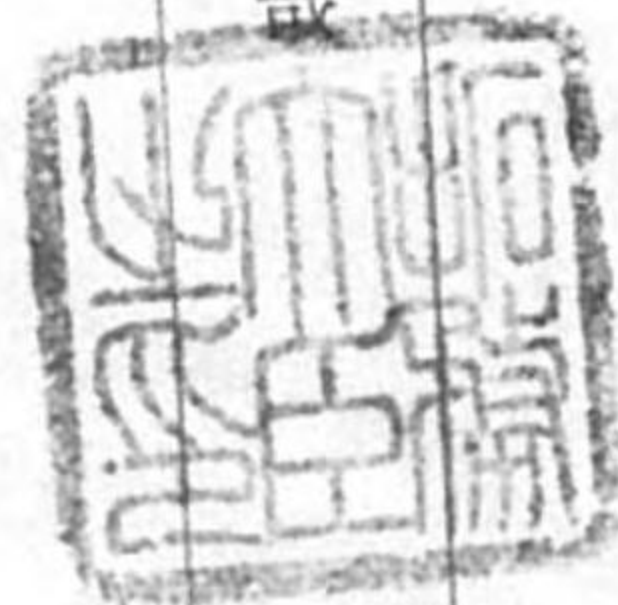
朝鮮感化令中改正ノ件

別紙制令案朝鮮感化令中改正ノ件進達ス

昭和十七年三月十日

拓務大臣 井野碩

裁



内閣總理大臣 東條英機 殿

拓甲八四

井野

厚祕第一六號

昭和十七年二月二十七日

朝鮮總督 南

次

內閣總理大臣 東條英機 殿

朝鮮感化令中改正ノ件

別紙制令案朝鮮感化令中改正ノ件公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候
様可然御取計相成度候也



別紙制令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十七年二月二十七日

朝鮮總督 南

次



月 羊 惣 督 手

制令第 號

朝鮮感化令中左ノ通改正ス

第一條中「十八歲」ヲ「十四歲」ニ改メ第三號ヲ第四號トシ第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 朝鮮總督府少年審判所ヨリ送致セラレタル者

第二條中「二十三歲」ヲ「二十歲」ニ改メ「第三號」ノ下ニ「又ハ第四號」ヲ加フ

第三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第一條第三號又ハ第四號ニ該當スル在院者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第四條第三項中「第三號ニ該當スル者」ヲ「第四號ニ該當スル者」ニ改ム
同條第三號ニ該當スル者ニシテ親權者又ハ後見人アルモノニ改ム
第七條中「在院者」ノ上ニ「第一條第一號、第二號及第四號ニ該當スル」
ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十七年三月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮少年令ニ依ル保護處分ノ實施セラレザル地區ニ限り第一條第一號
ノ年齡ハ八歲以上十八歲未滿トシ同條第二號ノ年齡ハ十八歲未滿トシ
第二條ノ年齡ハ二十三歲トス

理由

朝鮮少年令ノ制定等ニ伴ヒ朝鮮感化令ヲ改正スルノ必要アルニ依ル

參照

●朝鮮感化令

大正十二年九月三日
制令第十二號

朝鮮感化令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮感化令

第一條 朝鮮總督ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

一 年齢八歳以上十八歳未滿ノ者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲スノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナキ者

二 十八歳未滿ノ者ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ其ノ入院ヲ出願シタル者

三 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

第二條 入院者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前條第三號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 感化院長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ在院者ニ對シ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ感化院長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第四條 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シテ親權ヲ行フ
在院者又ハ假退院者ノ父母又ハ後見人ハ此等ノ者ニ對シテ親權又ハ後見ヲ行フコトヲ得

第一條第二號及第三號ニ該當スル者ノ財産ノ管理、戶主權ノ行使及相續ニ關スル事項ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第五條 感化院長ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ在院者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加フルコトヲ得

第六條 行政廳ハ第一條第一號ニ該當スヘキ者アリト認メタルトキハ之ヲ



説 明

朝鮮少年令第四條第一項第四號ノ規定ニ依リ感化院ニ送致セラルル者
ノ入院ノ途ヲ請ズルト共ニ朝鮮少年令ニ依ル保護處分ノ實施セラルル
地區ニ於テハ同令第十六條第二項ノ規定ノ趣旨ニ鑑ミ感化院ニ入院セ
シメ得ベキ者ノ年齢ヲ低下セシメ其ノ在院年限ヲ短縮セントス

111
... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

朝鮮感化令（抄）
（ ）印ハ改正ノ箇所ヲ示ス

第一條 朝鮮總督ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ感化院ニ入院セシム

ルコトヲ得

十四歳

一 年齢八歳以上十八歳未滿ノ者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行

爲ヲ爲スノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナキ者

十四歳

二 十八歳未滿ノ者ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ其ノ入院ヲ出願シ

タル者

朝鮮總督府少年審判所ヨリ送發セラレタル者

三

審判所ノ許可ヲ經テ感化場ニ入ルヘキ者

四

二十歳

第二條 入院者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前條第三號

又ハ第四號

ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第一條第一號又ハ第二號ニ

第三條 感化院長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ
該當スル

在院者ニ對シ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ感化院長ハ朝鮮總督ノ認可

ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第四條 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シテ親權ヲ行フ

在院者又ハ假退院者ノ父母又ハ後見人ハ此等ノ者ニ對シテ親權又ハ

後見ヲ行フコトヲ得ス

第四號

第一條第二號及第三號ニ該當スル者ノ財産ノ管理、戶主權ノ行使及

相續ニ關スル事項ニ付テハ前二項ノ決定ヲ適用セス

第一條第一號、第二號及第四號ニ該當スル在院者ノ親族又ハ

第七條

後見人ハ在院者ノ退院ヲ朝鮮總督ニ出願スルコトヲ得
前項ノ出願ニ對スル許可ヲ得サル在院者ニ關シテハ六月ヲ経過スル
ニ非サレハ退院ヲ出願スルコトヲ得ス
第一項ノ親族トハ朝鮮人ニ付テハ四親等内ノ者ヲ謂フ

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和十七年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮少年令ニ於ル保護處分ノ實施セラレサル地區ニ限り第一條中十四
歳未満トアルヲ十八歳未満トシ第二條中二十歳トアルヲ二十三歳トス



朝鮮矯正院令制令案

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年三月十七日

内閣總理大臣東條英機



拓甲二三

三月十八日發

昭和十七年三月十六日

內閣書記官長

內閣書記官

內閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

有

海軍大臣

有

商工大臣

厚生大臣

有

內務大臣

有

司法大臣

有

遞信大臣

有

鈴木國務大臣



大藏大臣

有

文部大臣

鐵道大臣

有

陸軍大臣



農林大臣

有

拓務大臣

有

別紙朝鮮總督上奏

朝

鮮

矯

正

院

去

司

局

令制定制令案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案
ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮矯正院令制定ノ件

上奏ノ通裁可ヲ經タリ

三月十八日

拓務省
文書課
第二課
第二課
第二課

止院令制定ノ件

別紙制令案朝鮮矯正院令制定ノ件進達ス

昭和十七年二月四日

拓務大臣 井野碩



内閣總理大臣 東條英機 殿

主任 管理局荒木書記官



拓甲二三

拓務省

法祕第九三號

昭和十六年十二月二十三日

朝鮮總督 南

次

內閣總理大臣 東條英機 殿

朝鮮矯正院令制定ノ件

別紙制令案朝鮮矯正院令公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候様可然御取計相成度候也



別紙制令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十六年十二月二十三日

朝鮮總督 南

次



制令第 號

朝鮮矯正院令

第一條 朝鮮總督府矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十五歳ヲ超ユル
コトヲ得ズ

第二條 朝鮮少年令第二十六條又ハ第五十一條ノ處分ニ依リ假ニ矯正
院ニ委託シタル者ハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケテ之ヲ置ク

第三條 十六歳ニ滿タザル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場
所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第四條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ
施シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

5/14

第五條 矯正院ノ長ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第六條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ朝鮮總督府少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第七條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲ退院セシムベシ

第八條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シ

テ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内朝鮮總督府少年保護司ノ觀察ニ付ス

第九條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

朝鮮少年令第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムベシ

第十二條 前二條ノ規定ハ朝鮮少年令第二十六條又ハ第五十一條ノ處分ニ依リ假ニ矯正院ニ委託シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十七年三月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

理由

朝鮮少年令ノ制定ニ伴ヒ同令ニ依リ朝鮮總督府矯正院へ送致シタル者
等ノ處遇等ニ關シ規定スルノ必要アルニ依ル

朝鮮矯正院令説明書

幼少年中ニハ不良性ノ程度高ク之ガ惡質ヲ矯正シ健全ナル國民トシテ
社會ニ復歸セシムルニ付特別ノ施設ニ收容シ其ノ自由ヲ拘束シテ嚴格ナル
緻養ヲ施スニ非ザレバ到底其ノ目的ヲ達シ難キモノアルニ鑑ミ朝鮮矯
正院令ニ於テ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲
ヲ爲ス虞アリ且性情特ニ不良ナル者ニシテ少年審判所ヨリ送致セラレ
タル者或ハ親權ヲ行フ父母ニ於テ懲戒場ニ入ルルニ付裁判所ノ許可ヲ
得タル者ハ之ヲ矯正院ニ收容シ其ノ性格矯正ノ爲嚴格ナル紀律ノ下ニ
緻養訓練ヲ施スト共ニ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシムルコトト
シ以テ不良性高度ノ犯罪少年乃至準犯罪少年ニ對スル處遇ノ適正ヲ期
シタリ

參照

民法

明治三十九年四月
法律第六十號

(各大臣訓令)

第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六個月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

四
月

制令第 號

朝鮮矯正院令

第一條 朝鮮總督府少年審判所ヨリ朝鮮總督府矯正院ニ送致シタル者及朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ矯正院ニ入院ノ許可アリタル者ノ矯正ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十五歳ヲ超ユルコトヲ得ズ
第三條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク

第四條 矯正院ハ收容スベキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク

第五條 十六歳ニ滿タザル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第六條 朝鮮總督ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡閱セシムベシ

朝鮮總督府少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スベシ

第七條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

第八條 矯正院ノ長ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第九條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ少年審

判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲ退院セシムベシ

第十一條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内朝鮮總督府少年審判所少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十二條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年
審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十三條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院
ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

朝鮮少年令第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程
ハ朝鮮總督之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定
ムハシ

第十五條 前二條ノ規定ハ少年審判所ヨリ假ニ委託シタル者ニ付之ヲ

準用ス

附則

本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由

朝鮮少年令ノ制定ニ伴ヒ同令ニ依リ朝鮮總督府矯正院へ送致シタル者
等ノ矯正ニ關シ規定スルノ必要アルニ依ル



朝鮮司法保護事業令制令案

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年三月十七日

内閣總理大臣東條英機



拓甲 二二

昭和十七年三月十六日

内閣書記官長

五

内閣書記官

三月十八日發

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

若

海軍大臣

八

商工大臣

五

厚生大臣

好

内務大臣

信

司法大臣

江

遞信大臣

五

鈴木國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

〇

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

光

拓務大臣

友

別紙朝鮮總督上奏

朝

鮮

司

法

保

去
司
司

護事業令制定案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ上奏案
ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

指令案

朝鮮司法保護事業令制定ノ件

上奏ノ通裁可ヲ經タリ

昭和十一年三月拾八日指令

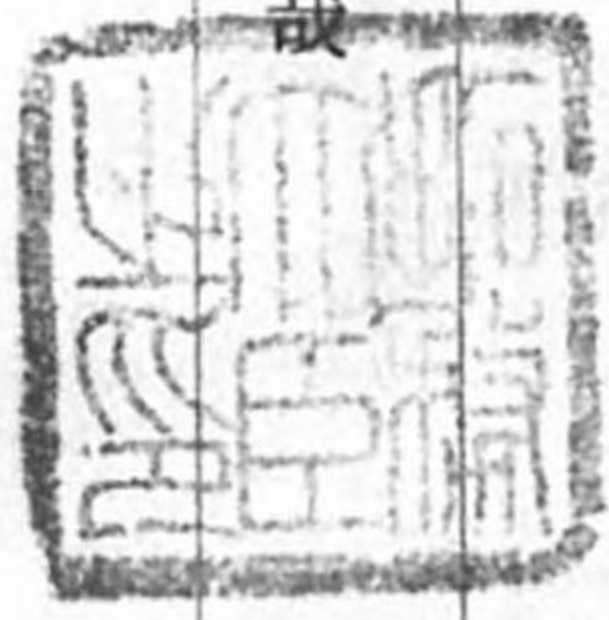
昭和十七年二月四日
拓務大臣

保護事業令制定ノ件

別紙制令案朝鮮司法保護事業令制定ノ件進達ス

昭和十七年二月四日

拓務大臣 井野碩哉



内閣總理大臣 東條英機 殿

主任 管理局荒木書記官



令投

拓甲 二二

拓務省

法祕第九一號

昭和十七年一月六日

朝鮮總督 南

次

內閣總理大臣 東 條 英 機 殿

朝鮮司法保護事業令制定ノ件

別紙制令案朝鮮司法保護事業令公布ノ必要有之候ニ付御裁可相成候様
可然御取計相成度候也



別紙制令案御裁可相成度

右謹テ奏ス

昭和十七年一月六日

朝鮮總督 南

次



月 羊 總 督 印

制令第 號

朝鮮司法保護事業令

第一條 本令ニ於テ司法保護事業トハ左ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業

及右事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者

二 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ執行停止中ノ者

四 刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者

五 假出獄中ノ者

六 刑ノ執行ヲ終リタル者

七、朝鮮少年令ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條ノ保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危険ヲ防止シ之ヲ

シテ進ンデ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其
ノ他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條 司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベ

シ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四條 朝鮮總督ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル

場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業

ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第五條 朝鮮總督ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委囑スルコトヲ得

第六條 司法保護事業ヲ經營スル者本令ニ違反シ、公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ又ハ著シク不當ノ行爲アリタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ者ニ對シ第三條ノ認可ヲ取消シ又ハ事業ノ經營ヲ制限スルコトヲ得

司法保護事業ヲ經營スル者ガ法人ナル場合ニ於テ理事其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ著シク不當ノ行爲アリタルトキ亦同ジ

第七條 政府ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第八條 司法保護事業ヲ經營スル者第六條ノ規定ニ依ル取消又ハ制限

ニ違反シテ司法保護事業ヲ經營シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 司法保護事業ヲ經營スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十條 司法保護事業ヲ經營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和十七年三月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ朝鮮總督ノ定ムル
所ニ依リ届出ヲ爲シタルモノハ第三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者
ト看做ス

理由

時局ニ鑑ミ國內治安ノ確保及人的資源ノ鍊成増強ニ資スル爲司法保護
事業ニ對スル指導監督及助成ヲ強化擴充スルノ要アルニ依ル

朝鮮司法保護事業令

第一條 本令ニ於テ司法保護事業トハ左ニ掲グル者、保護ヲ爲ス事業

及右事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者

二 刑、執行猶豫、言渡ヲ受ケタル者

三 刑、執行停止中、者

四 刑、執行、免除ヲ得タル者

五 假出獄中、者

六 刑、執行ヲ終リタル者

七 朝鮮少年令ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條、保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯ス、危險ヲ防止シ之ヲ

シテ進ンデ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其
、他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條 司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベ
シ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四條 朝鮮總督ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル
場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業
ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第五條 朝鮮總督ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ
關スル事項ノ調査ヲ委囑スルコトヲ得

第六條 司法保護事業ヲ經營スル者本令ニ違反シ、公益ヲ害シ若ハ害

スル、虞アリ又ハ著シク不當、行爲アリタルトキハ朝鮮總督ハ其、
者ニ對シ第三條、認可ヲ取消シ又ハ事業、經營ヲ制限スルコトヲ得
司法保護事業ヲ經營スル者ガ法人ナル場合ニ於テ理事其、他、業務
ヲ執行スル役員ニ著シク不當、行爲アリタルトキ亦同ジ

第七條 政府ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算、範圍内ニ於テ
獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第八條 司法保護事業ヲ經營スル者第六條、規定ニ依ル取消又ハ制限
ニ違反シテ司法保護事業ヲ經營シタルトキハ五百圓以下、罰金ニ處
ス

第九條 司法保護事業ヲ經營スル者ハ其、代理人、戶主、家族、雇人
其、他、從業者ガ其、業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己、指

揮ニ出デザル、故チ以テ其、處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十條 司法保護事業ヲ經營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其、者ガ法人

ナルトキハ理事其、他、法人、業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又
ハ禁治産者ナルトキハ其、法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行、際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ朝鮮總督、定ムル
所ニ依リ届出ヲ爲シタルモ、ハ第三條、規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者
ト看做ス

理由

時局ニ鑑ミ國內治安、確保及人的資源、鍊成増強ニ資スル爲司法保護

事業ニ對スル指導監督及助成ヲ強化擴充スル、要アルニ依ル

本會ハ...

...

朝鮮司法保護事業令制定ニ關スル説明書

朝鮮司法保護事業令制定ニ關スル説明書

一、朝鮮ニ於テ司法保護事業ヲ法制化スル理由

司法保護事業ハ檢察、裁判及行刑ト共ニ犯罪防遏ヲ目的トスル刑政上、重要部門ニシテ犯罪ニ因ル社會的落伍者ヲ物心兩方面ヨリ保護善導シ以テ彼等ヲ再犯ニ陥ラシメザルト共ニ進ンデ忠良ナル皇國臣民トシテ社會ニ復歸セシメ君國、爲一意奉公、赤誠ヲ竭サシムルコトニヨリ一面銃後治安、確保ニ貢獻シ他面國家、人的資源ヲ鍊成増強スベキ重要ナル責務ヲ負フモ、ニシテ、今ヤ時局ハ愈々深刻緊迫化シ高度國防國家體制確立、要急ナル、秋其、一翼ヲ荷フベキ本事業、使命ハ茲ニ倍加セラレルニ至レリ

今之ヲ朝鮮ニ於ケル最近、犯罪現象ニ看ルニ別表ニ明ナル如ク支那

事變勃發當初タル昭和十三年度ニ於ケル有罪裁判確定者ハ五萬百五十一名、再犯者ハ四千百十九名ニシテ國民精神、緊張或ハ經濟界、好轉等ニ因リ前年度ニ比シ一時的ニ其、數ヲ減ジタルモ、專變、長期化並ニ社會情勢、複雜化ニ伴ヒ漸次其、數ヲ増加シ昨昭和十五年度ニ於テハ實ニ有罪裁判確定者ハ五萬四千二百十七名、再犯者ハ四千六百九十六名ヲ算シ何レモ未曾有、數ヲ示シタル、ミナラズ之ヲ前世界大戰後ニ於ケル犯罪激増、歴史的現象ト考合スルトキ今次事變、終了時ニ於テモ同一現象ガ豫想セララル次第ニシテ之ガ對策、確立ハ洵ニ焦眉、緊要事ナリト謂フベク司法保護事業、全面的擴充強化ハ一日モ忽諸ニ附スルヲ得ザル、狀態ニ立至リタルモ、ト斷ズルヲ得ベシ

翻ツテ朝鮮ニ於ケル司法保護事業ノ現況ニ付稽フルニ犯罪防遏ノ他ノ段階タル檢察、裁判及行刑ノ各分野ハ其ノ機構整備シ夫々優秀ナル成績ヲ收メツツアルモ最後ノ段階タル本事業ノ分野ニ於テハ昭和十一年僅カニ朝鮮思想犯保護觀察令ノ施行ニ依リ思想犯保護事業ガ極メテ不充分ナガラ法制化ヲ見タルノミニシテ最モ多數ヲ對象者トスル普通犯保護事業ニ付テハ依然トシテ之ヲ民間篤志家ノ經營ニ一任シ何等ノ法的施設ヲ講ゼザル爲事業經營者ノ獻身的努力アルニモ拘ラズ其ノ成績ハ萎菲トシテ振ハズ將來モ亦満足スベキ成果ヲ期待シ得ザルノ實狀ニ在リ

内地ニ於テハ之ニ鑑ミル處アリテ昭和十四年司法保護事業法ヲ制定實施シ一面既存ノ司法保護團體ニ法的根據ヲ附與シテ其ノ機構ヲ整

備強化シ以テ收容保護ノ完璧ヲ期スルト共ニ他面新ニ司法保護委員
制度ヲ創始シ之ヲシテ觀察保護ノ遂行ニ當ラシメ兩々相俟キテ司法
保護事業史上劃期的成果ヲ發揮シツツアルヲ以テ朝鮮ニ於テモ略之
ト同一内容ヲ有スル朝鮮司法保護事業令及朝鮮司法保護委員令ヲ制
定實施シ普通犯保護事業ノ萬全ヲ期シ以テ非常時局下ニ於ケル國策
ノ要請ニ應ヘルト共ニ高度國防國家體制確立ノ一端ニ寄與セントス
ルモノナリ

三、司法保護事業法第六條ヲ削除スル理由

内地ニ於テハ寄附金募集ニ關シ一般的规定ナキヲ以テ司法保護事業
經營者ガ其ノ事業資金ヲ得ル爲メ寄附金募集ニ關シ本條ノ如キ規定
ヲ設クル必要アルモ（社會事業法ニ於テモ寄附金募集ニ關シ同趣旨

規定アリ。朝鮮ニ於テハ昭和八年朝鮮總督府令第七十六號「寄附金品募集取締規則」ヲ以テ總ユル寄附金募集ニ關シ詳細ナル一般的规定存スルヲ以テ司法保護事業資金ヲ得ル爲、寄附金募集ニ付特ニ本令ニ於テ本條、如キ規定ヲ設クル、必要ナキニ依ル

三、司法保護事業法第七條ヲ改正スル理由

司法保護事業經營者ハ第三條ニ依リ朝鮮總督ヨリ認可ヲ受ケタルモノニ限ルヲ以テ本條ニ規定スル如キ場合ハ殆ド豫想セラレザルノミナラズ朝鮮ニ於テハ司法保護事業經營者、數少キヲ以テ之ガ監督、徹底ハ充分期待セララルル次第ニシテ本條ニ規定スル如キ場合、ミニ付朝鮮總督、諮問機關トシテ司法保護事業委員會、如キ獨立ノ官廳ヲ設クル、必要ナキモノト認メタルニ依ル

四 司法保護事業法第九條ヲ削除スル理由

内地ニ於テハ地方税賦課、免除ニ關シ一般的規定ナキヲ以テ本條、如キ規定ヲ設クル必要アルモ（社會事業法ニ於テモ地方税賦課、免除ニ關シ同趣旨、規定アリ）朝鮮ニ於テハ昭和十一年朝鮮總督府令第五號「地方税、賦課ニ關スル件」ヲ以テ各場合、地方税賦課、免除ニ關シ一般的規定存シ同令、改正ニ依リ司法保護事業ニ付テモ地方税賦課、免除ヲ規定シ得ルヲ以テ特ニ本令ニ於テ本條、如キ規定ヲ設クル、必要ナキニ依ル

五 司法保護事業法第十條ヲ削除スル理由

朝鮮司法保護委員ニ關スル事項ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル、要アルモ本令ニ於テ本條、如キ規定ヲ設クルハ妥當ナラズト認メタルニ依

司法保護事業法第十四條第一號乃至第三號及附則第三項ヲ削除スル

六司法保護事業法第十一條第一號乃至第三號及附則第三項ヲ削除スル

理由

第一條 本法ニ於テ司法保護事業ニ關スル第六條ノ規定ヲ全部削除シタルヲ以テ

前記ノ如ク寄附金募集ニ關スル第六條ノ規定ヲ全部削除シタルヲ以テ

之ニ關聯スル罰則規定及經過規定ハ全部其ノ必要ナキニ依ル

ス

一 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

二 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

三 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

四 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

五 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

六 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

七 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

八 附則ノ規定ニ必要トセザルモノ

司法保護事業法ト朝鮮司法保護事業令ト、法條比較

◎司法保護事業法(昭和十四年法律第四二號)

◎朝鮮司法保護事業令

備考

意義

第一條 本法ニ於テ司法保護

第一條 本令ニ於テ司法保護 棒線、箇所ヲ改ム

事業トハ左ニ掲グル者、保

事業トハ左ニ掲グル者、保

護ヲ爲ス事業及右事業ニ關

護ヲ爲ス事業及右事業ニ關

シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲

シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲

ス事業ヲ謂フ

ス事業ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲

一 訴追ヲ必要トセザル爲

公訴ヲ提起セズトセラレ

公訴ヲ提起セズトセラレ

タル者

タル者

二 刑ノ執行猶豫、言渡ヲ

二 刑ノ執行猶豫、言渡ヲ

受ケタル者

受ケタル者

三 刑ノ執行停止中、者

三 刑ノ執行停止中、者

四 刑、執行、免除ヲ得タル者

五 假出獄中、者

六 刑、執行ヲ終リタル者

七 少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條、保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯ス、危険ヲ防止シ之ヲシテ進ンデ臣民、本分ヲ恪守セシムル爲性格、陶冶、生業、助成其、他適當、處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

四 刑、執行、免除ヲ得タル者

五 假出獄中、者

六 刑、執行ヲ終リタル者

七 朝鮮少年令ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條、保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯ス、危険ヲ防止シ之ヲシテ進ンデ臣民、本分ヲ恪守セシムル爲性格、陶冶、生業、助成其、他適當、處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 司法保護事業ヲ經營

セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

監督

第四條 主務大臣ハ司法保護

事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業

保護ノ種類及方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム
棒線、箇所ヲ改ム

第三條 司法保護事業ヲ經營

セントスル者ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四條 朝鮮總督ハ司法保護

事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業

棒線、箇所ヲ改ム

棒線、箇所ヲ改ム

ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

調査委囑

第五條 主務大臣ハ司法保護

事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委囑スルコトヲ得

寄附金募集

第六條 司法保護事業ヲ經營

スル者其ノ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得ル爲寄附金ヲ募集セントスルトキハ主

ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第五條 朝鮮總督ハ司法保護

事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委囑スルコトヲ得

棒線ノ箇所ヲ改ム

内地第六條ヲ削ル朝鮮ニ於テハ寄附金募集ニ關シ別ニ府令アリ特ニ本令ニ規定スルノ要ナ

務大臣又ハ地方長官、許可
ヲ受クベシ

前項、規定ニ依リ寄附金ヲ
募集シタル者（其、承繼者

ヲ含ム）ハ其、收支ヲ寄附
金募集、許可ヲ受ケタル官

廳ニ報告スベシ

前項ニ掲グル者其、寄附金

又ハ之ニ依リテ得タル財産

ヲ處分セントスルトキハ寄

附金募集、許可ヲ受ケタル

官廳、許可ヲ受クベシ

認可取消又ハ制限

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including phrases like "認可取消又ハ制限" and "前項ニ掲グル者"）

第七條 司法保護事業ヲ經營

スル者本法ニ違反シ、公益
ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ
又ハ著シク不當ノ行爲アリ
タルトキハ主務大臣ハ司法
保護事業委員會ノ意見ヲ聽
キ其ノ者ニ對シ第三條ノ認
可ヲ取消シ又ハ事業ノ經營
ヲ制限スルコトヲ得司法保
護事業ヲ經營スル者ガ法人
ナル場合ニ於テ理事其ノ他
ノ業務ヲ執行スル役員ニ著
シク不當ノ行爲アリタルト
キ亦同ジ

第六條 司法保護事業ヲ經營

スル者本令ニ違反シ、公益
ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ
又ハ著シク不當ノ行爲アリ
タルトキハ朝鮮總督ハ其ノ
者ニ對シ第三條ノ認可ヲ取
消シ又ハ事業ノ經營ヲ制限
スルコトヲ得司法保護事業
ヲ經營スル者ガ法人ナル場
合ニ於テ理事其ノ他ノ業務
ヲ執行スル役員ニ著シク不
當ノ行爲アリタルトキ亦同
ジ

棒線ノ箇所ヲ改ム
朝鮮ノ現状ニ於テ
ハ司法保護事業委
員會ヲ獨立ノ諮問
機關トシテ設クル
ノ必要ナキヲ以テ
之ヲ削除ス

司法保護事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獎勵金ノ交付

第八條 政府ハ司法保護事業

ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

租稅其ノ他公課金ノ免除

第九條 道府縣、市町村其ノ

他、公共團體ハ司法保護事業ノ用ニ供スル土地建物ニ

第七條 政府ハ司法保護事業

ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

内地ト同ジ

内地第二項ヲ削ル司法保護事業委員會ヲ設ケザルコトシタルヲ以テ本令ニ規定スルノ要ナシ

内地第九條ヲ削ル朝鮮ニ於テハ地方稅賦ノ免除ニ關シ別令ニ規定スルニ本令ニ規定スルノ要ナシ

對シテ租稅其ノ他ノ公課ヲ
課スルコトヲ得ズ但シ有料
ニテ之ヲ使用セシムル者ニ
付テハ此ノ限ニ在ラズ

司法保護委員

第十條 第一條ニ掲グル者ノ

保護ヲ爲サシムル爲別ニ司
法保護委員ヲ置ク

司法保護委員ニ關スル規程
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

罰則

第十一條 司法保護事業ヲ經

第八條 司法保護事業ヲ經營

内地第十條ノ訓
司法保護委員ニ關
スル事項ハ別ニ勅
令ヲ以テ規定スル
ニ依リ本令ニ規定
スルハ要ナシ

營スル者左ノ各號、一ニ該
當スルトキハ五百圓以下、
罰金ニ處ス

一 第六條第一項、規定ニ

依ル許可ヲ受ケズシテ寄

附金ヲ募集シタルトキ

二 第六條第二項、規定ニ

依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛

偽、報告ヲ爲シタルトキ

三 第六條第三項、規定ニ

依ル許可ヲ受ケズ又ハ其

ノ許可ニ反シテ寄附金又

ハ之ニ依リ得タル財産ヲ

スル者第六條、規定ニ依ル
取消又ハ制限ニ違反シテ司
法保護事業ヲ經營シタルトキ
ハ五百圓以下、罰金ニ處ス

内地第一號乃至第

三號ヲ削ル

寄附金募集ニ關ス

ル規定ヲ削除セル
爲其ノ要ナシ

本處分シタルトキ

四、第七條ノ規定ニ依ル取

消又ハ制限ニ違反シテ司

法保護事業ヲ經營シタル

トキ

責任ノ轉嫁

第十二條 司法保護事業ヲ經

營スル者ハ其ノ代理人、戶

主、家族、雇人其ノ他、從

業者ガ其ノ業務ニ關シ本法

ニ違反シタルトキハ自己、

指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ

其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第九條 司法保護事業ヲ經營

スル者ハ其ノ代理人、戶主、

家族、雇人其ノ他、從業者

ガ其ノ業務ニ關シ本令ニ違

反シタルトキハ自己、指揮

ニ出デザルノ故ヲ以テ其、

處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

棒線ノ箇所ヲ改ム

第十三條 司法保護事業ヲ經營

營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其、者ガ法人ナルトキハ理事其、他、法人、業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其、法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行、期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行、際現ニ司法保護事

第十條 司法保護事業ヲ經營内地ト同ジ

スル者ニ適用スベキ罰則ハ其、者ガ法人ナルトキハ理事其、他、法人、業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其、法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

本令昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行、際現ニ司法保護事

棒線、箇所ヲ改ム

業ヲ經營スル者ニシテ命令、
定ムル所ニ依リ届出ヲ爲シタ
ルモノハ第三條ノ規定ニ依ル
認可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六條第一項ノ規定ハ司法保
護事業ヲ經營スル者ニシテ本
法施行前寄附金ノ募集ニ付行
政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノ
ニ對シテハ其ノ許可ニ基キ本
法施行ノ際現ニ募集中ノ寄附
金ニ付之ヲ適用ス

業ヲ經營スル者ニシテ朝鮮總
督ノ定ムル所ニ依リ届出ヲ爲
シタルモノハ第三條ノ規定ニ
依ル認可ヲ受ケタル者ト看做
ス

内地第三項ヲ削ル
寄附金募集ニ關ス
ル規定ヲ削除セル
爲其ノ要ナシ

朝鮮司法保護事業令參考資料

全二卷... 司法保護事業令... 參考資料... 朝鮮司法保護事業令... 參考資料... 朝鮮司法保護事業令... 參考資料...

朝鮮司法保護事業令... 參考資料... 朝鮮司法保護事業令... 參考資料...

一、司法保護資料

二、關係法令

- 1、寄附金品募集取締規則
- 2、法人ノ設立及監督規程
- 3、免囚保護事業補助金下付手續

昭和十六年

司
法
保
護
資
料

朝鮮總督府
法務局
行刑課

朝鮮總督府
法務局
行刑課

目次

一、犯罪關係

1、犯罪現象調

(1)、有罪犯人、處分別調 一頁

(2)、新受刑者、刑務所入所狀況調 二頁

2、再犯狀況調

(1)、新受刑者、初犯、再犯別比較 三頁

(2)、新受刑者中、出所後再犯ニ至ル迄ノ期間 四頁

3、司法保護事業ノ對象調 五頁

二、司法保護團體關係

1、保護團體取扱保護人員調 六頁

2、司法保護事業補助金下付調 七頁

3、全鮮司法保護團體一覽表 八頁

三、司法保護委員關係

1、司法保護委員ニ依ル觀察保護人員豫定調	一〇頁
2、司法保護委員會所屬區委員會及委員豫定數調	一一頁
3、司法保護委員會ノ名稱、位置及管轄區域豫定調	一二頁
4、司法保護委員制度關係職員豫定調	一三頁

犯罪現象調

(1) 有罪犯入ノ處分別調

年次	有罪總入員	有罪裁判確定	起訴猶豫	警察署ニ於ケル即決
昭和十一年	二二七、二一五人	四九、九八四人	四五、七五三人	一三、四七八人
昭和十二年	二二二、〇四七	五、三三二	四五、四七六	一二、五二三九
昭和十三年	二一六、九八四	五〇、一五一	四〇、二〇七	一二、六六二六
昭和十四年	一九六、六四〇	四六、七一七	三七、〇五〇	一一、二、八七三
昭和十五年	一九九、二四五	五四、二一七	四〇、一五〇	一〇、四八七八

(回) 新受刑者ノ刑務所入所狀況調

年度	種別		種別	種別	種別	種別	種別	種別
	性	別						
昭和十五年	女	男	内地人	朝鮮人	外國人	計	指	數
	265	8						
昭和十四年	女	男	293人	10,677人	174人	1,460人	1,000	110,7
	10	265						
昭和十三年	女	男	295	10,782	146	1,497	1,045	104,5
	11	259						
昭和十二年	女	男	100	3,140	214	1,339	108,1	107,1
	7	292						
昭和十一年	女	男	1,067	2,911	15	1,460	1,000	100,0
	5	295						

再犯狀況

(1) 新受刑者、初犯、再犯別比較

年 別	新受刑者 總人員	初犯者		再犯者	
		人員	昭和十一年ニ 對スル指數	人員	昭和十二年ニ 對スル指數
昭和十一年	一、四六〇人	七、四〇八人	一〇〇.〇	四、〇五二人	一〇〇.〇
昭和十二年	一、三七一	七、八六〇	一〇六.〇	四、五一一人	一一.三
昭和十三年	一、五九二	七、四七三	一〇〇.八	四、一一九	一〇.四
昭和十四年	一、九五三	七、五六七	一〇二.一	四、三八六	一〇.八二
昭和十五年	一、三六八六	八、九九〇	一二.三	四、六九六	一一.五九

(ロ)新受刑者中其ノ出所後再犯ニ至ル迄ノ期間

年 別	一 年 未 満			一 年 以 上			合 計
	六 月 未 満	一 年 未 満	小 計	二 年 未 満	二 年 以 上	小 計	
昭和十一年	一、五九三 三九、三%	一、六七五 一六、七%	三、二六八 五六、〇%	一、六五五 一六、二%	一、一三〇 二七、八%	二、七八五 四四、〇%	四、〇五三 人
昭和十二年	一、八六七 四一、三%	一、七五五 一六、七%	三、六二二 五八、〇%	一、六八六 一五、二%	二、二〇三 二六、八%	三、八八九 四二、〇%	四、五一一
昭和十三年	一、六九三 四一、一%	一、七〇五 一七、一%	三、三九八 五八、二%	一、六六四 一六、一%	二、〇五七 二五、七%	三、七二一 四一、八%	四、一一九
昭和十四年	一、八七一 四二、七%	一、六六九 一五、二%	三、五四〇 五七、九%	一、七一〇 一六、二%	二、一三六 二五、九%	三、八四六 四二、一%	四、三八六
昭和十五年	一、九八九 四二、三%	一、七六八 一六、九%	三、七五七 五八、七%	一、七四四 一五、八%	二、一九五 二五、四%	四、九三九 四一、二%	四、六九六

備考 %ハ新受刑者總人員ニ對スル割合ヲ示ス

司法保護事業ノ對象者調

年 別	釋 放					
	釋放者總數	滿期釋放	假釋放	執行停止	執行猶豫	起訴猶豫
昭和十一年	六二、八三二人	一四、七九六人	一〇、二八八人	一、二四四人	一、一三一一人	四、五七五三人
昭和十二年	六三、〇四四人	一五、四一二	九、〇五	九三	一、一五八	四、五四七六
昭和十三年	五七、〇六六	一四、五五二	九、二二	一、〇二	一、二八三	四、〇二〇七
昭和十四年	五三、二五四	一三、六〇一	一、二一三	一、一九	一、二九一	三、七〇三〇
昭和十五年	五七、九〇三	一五、一四六	一、二五六	一、〇六	一、二四五	四、〇一五〇
五ヶ年平均	五八、八一九	一四、七〇一	一、〇六五	一、〇九	一、二二一	四、一七二三